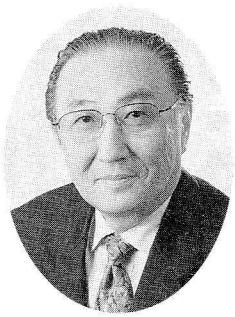
幽玄

題字　高秀秀信

横浜能楽連盟
会報　No.29
平成17年3月25日

いわずもがこと



会長　新堀豊彦

この会報「幽玄」を御覧になっていらっしゃる方の、九九％は確実に謡曲か仕舞を嗜まれる方々であると存じます。

したがってこの方々に対して謡曲や仕舞の面白さや楽しさをあらためて麗々しく申し上げる必要はさらさら御座居ませんし、釈迦に説法とはまさにこのことをいうのでしょうが、流派こそ異なれ、能や謡曲の世界にとりつかれて何十年というキャリアの方々が多い中で、どうも昨今気になることが多いので又かとお思いになる方もおられると思いますが、敢てうるさいのを承知で筆をとりました。

我々の、この日本文化芸術の最高峰に立つ能という趣味に魅せられているものにとって、これ以上の存在はないという確信があります。したがってこの世界にいるというだけで、自ら大きなプライドも持ちますし、一種の陶酔感にひたっていることも間違いありません。

我々はいうまでもなくアマチュアでありますからそうした形での能への接し方、あるいは謡曲の稽古を行うことは当然といわなければなりませんし、実は、それで完結しているといってもよろしいかと存じます。

又、能を鑑賞するということ、能を見て理解して楽しむということは大切であり、より一層の普及と繁栄がもたらせることを望むものであります。

横浜能楽堂が、その面では多分、日本一の質量を誇る活動を展開されていることに、大いなる敬意と感謝を捧げたいと思います。

同時に謡曲や仕舞を稽古する素人の我々にも、この活動を支え、生長させてゆく義務もあると考えられます。

そこで我々がやらねばならないことは、まさに老齢化減少の一途を辿りつつある稽古人口を何とかして上向きにすることではないでしょうか。

一人一人が自分の楽しみのカラに閉じこもっている時代ではないと思います。出来得る限りあらゆるチャンスを捉えて、一人でも二人でも仲間を増やす。それも出来るだけ若い方々に入って頂く。連盟の将来、謡曲仕舞の稽古をする仲間づくりこそ今、我々のなすべき最大の課題であり、各流の素人にとっての使命ではないでしょうか。

謡曲は難しい、とっつきにくい、お金がかかるなどなど、色々時流にそわない面もありますが、真の日本の伝統文化の理解には能が一番であります。

そして謡曲は誰でも手軽に取りつくことの出来るものであることを皆様といっしょに声を大にしてPRしようではありませんか。

平成十六年度の総括

総務担当　鈴木　力雄

今年度は、四月の総会で承認された活動計画に則り、主要事業である横浜能は梅若恭行師追善能を含む二日興行を行った。

また「横浜五流能楽大会」と「五流交流のつどい」を予定どおり開催した。なお、これまで「大会」「つどい」の番組づくりのなかで同じ流派、同じ演目であるのに異なる場合があったので、流派、演目ごとに統一を図ることとし「横浜五流能楽大会・五流のつどい」番組作成書式を策定した。

十七年度事業の準備として、五十三回横浜能は「田辺竹生師追善能」と当番である「金春流による能」の二日興行と決った。また二十一回の五流能楽大会では梅若会による素人能のほか新しい試みとして、同一曲の同一箇所を五流が謡い競う新企画を策定した。

特記事項としては「横浜能楽連盟規約」の改正に着手した。現行規約は平成元年に、連盟の「法人化」を前提に定められたものであるが、今なお、法人格を得るための諸条件を明確に整えるに至らず、現状に合っていない等の問題がある。このため「規約改正検討委員会」を設置、改正案を策定し、十七年度総会に提案することとした。

最後に、平成十二年度以降、副会長は二名であったが三名に戻すべきとの提案があり、観世流藤本圭佑氏が選出された。

第八回「五流交流のつどい」報告

当番幹事
喜多流　杉山　昭二

本来交流のつどいは二月の第二土曜日に開催することになっていますが、今年は第二土曜日が三連休の真中の日となりますので第一土曜日の平成十七年二月五日に繰上げて開催致しました。

今年は喜多流と海謡会が当番幹事を担当しました。何かと行き届かぬ点も多かったかと存じますが、各流派の責任者の方々や当日ご出演の方々のご協力により無事終了することが出来ました。関係各位に心からお礼申上げます。

当日は素謡十九番、連吟三番、仕舞十六番と全部で三十八番もの盛大な催しとなり、出演者も延べ三百名という多くの方々に参加頂き盛況のうちに終えることができたことを感謝しております。平素のご精進の程をご披露賜り心からお慶び申上げます。

さて、毎回問題になる出演申込時間に対する実績時間の超過

ですが、今回の出演者の皆様のご協力により総合的には問題なく殆ど予定通りとなりました。

各流派出演実績

	演目（番）			出演時間(分)	
	素・連	仕	計	予	実
観世流	7	5	12	160	163
(観)梅若会	2	0	2	55	54
宝生流	4	3	7	80	83
金春流	3	2	5	50	47
金剛流	2	2	4	40	39
喜多流	2	3	5	45	44
海謡会	2	1	3	40	43
計	22	16	38	470	473

開演：９時30分　　終曲：５時30分

今後ともこの点についてはお申込み頂くときに充分にご検討いただき超過しないようご配慮をお願いいたします。

なお来年の第九回「五流交流のつどい」は平成十八年二月十一日(土)の予定です。以上、第八回のご報告と致します。

蛇足の話

金剛流　草場　正春

H先生の著した能に関する本の書き出しに「見る者にも努力を強いる芸能、それがまた能である。」とあったが、その努力をしない、しようとしない俗輩など能を見る適格を欠いているのかも知れない。

常世（とこよ）の物語である能の空間には、なかなか入っていけない。現世の速度と同じ速さの舞台は、多分に退屈しないと思うが動きの少ない、動きののろい舞台はやはり退屈である。それとも演者が下手なのか見る者が駄目なのか、謡曲人口の末席を汚している俗輩は貝になっている次第。

私事だが、何事も見聞する折は、事前に勉強するなどしない横着である。

ご先祖から戴いた貧しい知覚あるのみ、学習の蓄えも乏しい、こんな按配で観能するのである。

能を見たあとで、自分が実感した感動した読み取ったと思っている常世と、斯界の先生が著わした常世と合わせて、反芻しながら橋懸かりなどを再体験するのである。

能は概ね、のろく進行するためか演者と舞台を一瞥したあと、特に舞台上の変転がない事もあってか謡本の勉強とかで演者・舞台を見ない方もある。やはり、それらは見る者の目ン玉を引き付けて欲しいのである。面が良いの、装束が素晴しいので終わるのは淋しい。

謡の稽古を始めて二十年、出来が悪いと見えてなかなか上達しない。十年もやっているとこれで限界かなと思ったりする。

声質が分かり、無理なく発声する方法など、曲りなりにも会得出来たかなと自分の実力を認識しただけでも、少しは上達したのかも知れないと思うこの頃である。

なかなか稽古仲間が増えないのは淋しい。流行の歌は巷間身近にあり耳学問でも何とか唄えるが、謡曲はちと手解（てほど）き戴かねば鼻歌とはいかないのではなかろうか。

昨今では薪能など、もの珍しさもあって観能を楽しむ方が増えたと側聞するが結構な次第である。この事がご一緒にお謡をと、為ればよろしいのだが、体や周りに謡曲の染みが付いてなければなかなか。流友は場所を選ばずに謡って巷に染みを付けよう。

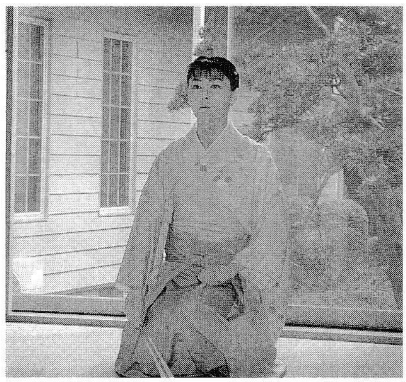
俗輩を謡に誘ってくれた先輩、懲りずに指導して下さる師範に感謝あるのみ。横浜には横浜能楽堂、そして久良岐能舞台が有り、ありがたく利用させて頂いてる。これも感謝。

素晴らしき出会いに感謝

観世流　梅若会　岩瀬　弥生

堀内歯科クリニックは、元町商店街を一本入った所にあり、行き帰りに華やかな店々を眺めるのも、こちらへ伺う楽しみの一つです。西洋医学に東洋医学をミックスしたユニークな治療法に魅（ひ）かれ、患者として通院するようになったのですが、まさかそちらの院長先生のお母様に舞を教えていただくことになろうとは、本当に思いもよらないことでした。

「舞うのが楽しそうだから」ただそれだけで始めた仕舞ですが、稽古に通い始めると、おもしろいことに、能と関係のありそうなものすべてに目が行くようになったのです。



歌舞伎の新聞記事、お囃子の御一家のドキュメンタリー番組、野村萬斎さんの出ている幼児番組…。「能野」から習い始めたので、『平家物語』も（子ども向けの平易なものを見つけました）読みました。中学生の時以来、実に二十数年ぶりです！先生の「宗盛も出ているわよ。」のひと言で、ＮＨＫの「義経」も見始めました。今や、四才の息子も大ファンです。これらのものは、舞を習い始める前には何の興味もなかったのですが、今は、すべてが新鮮でおもしろいのです！

また、先日、息子が、棚の扇を落とし、「お母さんの大事なもの」と言いながら持ってきました。「お母さんの大事なものだから持ってきてくれたの？」と聞くと、「素敵だなぁって思っちゃったの。」と言うではありませんか。小さい子でも、美しいものはわかるのですね。驚きつつも感激しました。

「あなた、お仕舞なさらない？」先生のこのひと言からひろがった素晴らしい世界。このご縁を下さったすべてのめぐりあわせに感謝したい気持ちでいっぱいです。

あとがき

今回は新人に書いてもらいました。お稽古を始めて三ヶ月、お能の事も謡も仕舞も何も知らなかった世界を見てしまってさぁ、大変。人生観まで変わりそうです。若い力に期待してます。

堀内万紗子

入会のお勧め　横浜能楽連盟

当連盟は能楽愛好者が参加できる行事を年間二回開催しています。

あなたも横浜能楽連盟の会員になって横浜能楽堂の本舞台で稽古の成果を披露してみませんか。本紙末尾の連絡先へ電話してみましょう。各流の役員に連絡がとれます。

"ハマの宝"横浜能楽堂 この十年に想うこと

副会長　藤本　圭佑

○紅葉ヶ丘の能楽堂

平成八年、ここ紅葉ヶ丘に能楽堂が完成して早や十年になる。立地・施設・運営の良さ、三拍子揃っていまや全国に誇るハマの宝である。

桜木町から音楽通りをぬけ、紅葉坂を登りつめて右に折れる。ここからは、かつて私が名付けた「幽玄の小径」である。四季折々、光と色彩の変化を楽しみつつ随分と通った道である。

丘の上からの眺め、仔細に見ると超高層ビルが林立し何時とも知らず遠景をブロックしている。

横浜開港の頃、ここに神奈川奉行所があり、眼下の開港場の町並や異人館、港の艦船を見渡されていたという。

時の移ろいは早い、二〇〇九年には開港一五〇年を迎える。

○横浜とお能

横浜と能楽の歴史は古い。

明治二十三年、伊勢山皇太神宮に能楽堂ができ、五流揃って演能を催した記録が残っている。

江戸から明治にかけてミナト横浜のまちづくりには能楽愛好者が携わった確かな証がある。

それは、全国的に例を見ない謡曲に因んだ町名の数々。

明治維新間もない関内地区には、太田屋新田埋立地に「高砂」の相生・高砂・住吉・常盤・尾上の町名がつけられた。（このうち高砂は地区改正により時を経ず廃止される。）

吉田新田埋立地に、続々とまちづくりが拡大し、羽衣・不老・翁・扇・梅ヶ枝等雅名・佳名がまちを彩る。さらに、昭和の初めには高砂の名が再び南吉田町に登場し浦舟と合わせて見事な能の舞台が形づくられた。

ここまで綺麗に揃うと、何かしら誇らしい気分になる。これまさに、丘の下のまちに広がるハマの宝である。

○活動の拠点を得て

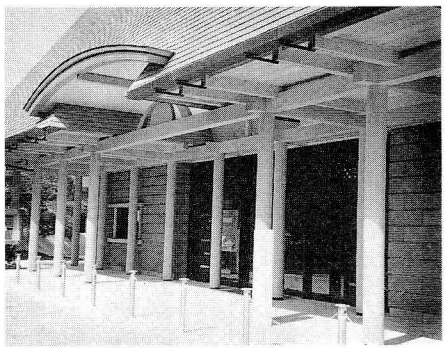
横浜能楽連盟は、昭和二十三年創立以来五十有余年になる。その大半は定まった公演会場や運営・行動の場所がなく、財政的にも恵まれない環境のなかでの活動であった。

新堀会長をはじめ多くの先輩のご努力によって、長い間の念願が実り、横浜能楽堂の完成をみた。

立地条件、施設内容いずれをとっても超一流の拠点を得て、連盟固有の活動として五流能楽大会、五流交流のつどい等思い通りにできるようになった。勿論、連盟の役員会、総会にもこの施設を利用させていただいている。

ここに至る長年に亘るご苦労を思うとき、殊更、有り難さを深く感じるのである。

願わくば、より多くの方々の参加と利用がいただければ、この上ないことと思う。



横浜能楽堂　正面玄関

○副会長に就任

私は、昨年（二〇〇四年）この伝統ある連盟の副会長をお受けすることとなった。もとより浅学非才であるが、お受けした以上、連盟のために誠心誠意努めたいと考えている。

初仕事は、連盟の規約改正である。現行規約は、平成元年に制定された。バブル経済の最中、新しい能楽堂の完成を遠望しつつ法人格のある団体を目指し、策定されている。

改定作業は、各流派代表の役員に参加をお願いして検討することとなった。一番の問題は、法人のカタチである。諸般の情勢を勘案し、法人格のないいわゆる「任意法人」として運営することを改定の基本方針とした。

改定案は十七年度の総会にお諮りすることとしている。

いま連盟の最重要課題は、次世代を担う人達が一人でも多く能楽・謡曲に興味を持ち自ら嗜んで愛好者になっていただくようにすること。

私も微力を尽したいと考えている。

宝生流年末の二つの行事

宝生流　小林美佐子

一年間の活動の締めくくりとして、毎年十二月に決まって行われる行事が二つあります。「教授嘱託会神奈川県支部大会」と横浜宝生流連合会の「納会」です。

前者の支部大会は、神奈川県の教授嘱託だけで行うもので、平成十六年十二月十九日に第十六回目が横浜能楽堂第二舞台で行われました。

現在神奈川県で登録されている教授嘱託の数は七十六人で、この日だけは自分たちが日頃研鑽していることを発表する場として、気合を入れて参加いたします。

今回は素謡十二番、仕舞十番、舞囃子一番、独吟三番と非常に多彩でしたが、特に九十歳を超えた高橋米子氏の「弱法師」の独吟は圧巻で、鍛えぬいた謡と艶を失わない声音に、後輩たちはただただ感服するばかりでした。

こうした先輩がいつまでも元気で嘱託会を支えてくれていることに改めて感謝しています。

さて、もうひとつの横浜宝生流連合会の納会ですが、これは、毎月行っている例会の締めくくりとして、平成十六年度も職分の大坪喜美雄先生をお呼びして十二月二十三日に久良岐能舞台で行われました。

横浜能楽堂ができてからはこの舞台をほとんど使わなくなってしまいましたが、八年ぶりに、木立に囲まれ遅い紅葉の残る久良岐の舞台で開催し、役員にとっては横浜能楽堂と又一味違った感慨がありました。

番組は、午後のみで、素謡三番、仕舞四番、番外素謡「雨月」が行われましたが、この番外素謡は、シテを大坪先生が謡い、更に地頭も勤めていただき、ワキは新堀豊彦氏が勤めるというとても贅沢なもので、参加者全員緊張しながらも楽しくおわりました。

職分の先生と素人の愛好家が、こうした場を通じて交流を深め

られる行事が宝生流では比較的日常的に行われていることで、年間の多くの行事にメリハリがつき、私たちにとってとても励みになっていると思います。

平成十七年度も、もう既に始まっています。例年のように無事終われることを今から念じつつ、報告させていただきました。

新企画公演を見聞して

金春流　土屋　政雄

横浜能楽堂でのユニークな公演を鑑賞する機会を得ることができた。

その一つは、「企画公演　日本の音」という連作の二回目と「バリアフリー能」の『鍾旭』である。

当日は、ほぼ満席の盛況であったが、古典芸能としての器楽による演奏に大変興味を持っている私は、チケット発売中との知らせを見て一も二もなく申し込んだ。

「バリアフリー能」についても格別の関心があったが、幸いこのチャンスに恵まれ観ることができた。

その内容の一端を、多少なりとも関心を持っておられる方々の参考になればと思い書かせてもらいます。

新しい企画の一つは、「三曲の至芸」と称する昔からある箏と三味線と尺八の、三つの楽器による合奏（尺八の代りに胡弓による場合もあるが）で、これらの音楽領域を総称して三曲と言い、合奏スタイルにしたものを三曲合奏と言っているとのことです。

この日は、演奏者が人間国宝及びこれに準ずる方々の合奏でそれぞれ素晴しい出来ばえであった。なかでも「小督」の曲が三曲合奏された際は、想夫恋の箏の音をたよりに小督を探すくだりは、なんとも言えず能と一体化した雰囲気が醸成されて感動しました。

その他、独奏も尺八・箏・胡弓（二胡とも言う）によるものもあった。特に、胡弓によるものは、中国伝統の弦楽器で音色に特徴があって人生の哀歓を豊かに表現していて、幽玄さが感じられてとても良かった。先人の努力と智恵の結果には頭の下がる思いであった。

当日の案内役は、歌舞伎俳優の沢村藤十郎で名女形の方である。このとき、御本人は足が不自由な状態で（リハビリ訓練中とのこと）のご出演で多勢の聴衆に四方山的な語り口でやさしく懸命に話される様子に、私を含め満員の方々は深い感銘を受けました。

又、「江戸の風情・上方の粋」、「町衆の心意気」での音曲では、雅楽を主体とした千年の響、三味線を主体とした端唄・小唄等の江戸の風情、更には日本最大の囃子競演による町衆の心意気が感じられて良かった。

もう一つの普及公演の「バリアフリー能」は、多くの身体障害者の方々が介護者を含めて来場していました。

解説・案内役の方から、開口一番、本日の出席者の方で「能を初めて観られる人は手をあげてください」との問いに、約三割ほどの方々が挙手されていました。少くないと思っていた私としては、思いのほか多いので感激しました。

能の世界も関係者の日々の努力によって、今後ますます発展して行くであろうと、期待と希望をもったことでした。

そして、実演を混じえた解説も良かった。観終って思ったことは、横浜能楽堂の地道な企画に感謝すると共にこれからも続けていってもらいたいものである。

能楽堂だより

四月～六月の公演

横浜能楽堂では、次のとおり公演を開催いたします。

「特別公演」

四月九日（土）午後二時。

能「恋重荷」（観世流）山本順之。

狂言「金岡」（和泉流）野村又三郎。

S席八千円、A席七千円、B席六千円。チケット発売中。

「普及公演」

四月二十三日（土）午後二時。

能「春日龍神」（喜多流）出雲康雅。

狂言「清水」（和泉流）三宅右近。

S席四千円、A席三千五百円、B席三千円。チケット発売中。

「企画公演　子方が描く能・狂言」

第一回「子方とは」

五月八日（日）午後二時。

能「初雪」（金春流）金原穂高、金春飛翔。

狂言「老武者」（大蔵流）山本東次郎、山本凛太郎。

対談「子方とは」

S席九千円、A席八千円、B席七千円。

第二回「子方の成長①」

六月四日（土）午後二時。

能「鞍馬天狗　白頭・大勢」（観世流）観世恭秀、観世紘顕。

狂言「靭猿」（和泉流）野村又三郎、野村信朗。

S席九千円、A席八千円、B席七千円。第一回、第二回ともチケット発売中。

「普及公演＝イブニング能」

六月二十三日（木）午後七時。

能「二人静」（観世流）梅若晋矢、山中迓晶。

狂言「節分」（大蔵流）山本則孝。

S席四千円、A席三千五百円、B席三千円。

チケット発売は五月二十一日（土）正午より電話にて発売。

お問い合わせ・お申し込みは〇四五（二六三）三〇五五まで。

《編集後記》

▽お能を鑑賞される人は多くなっているが、謡や仕舞をやってみようと言う人は増えていない。これは能楽連盟の会員数の減少になっていると言われて久しい。会長は巻頭言で檄を発しています。会員の皆様には、一人でもお誘いして増やすように頑張りましょう。

▽幽玄第15号から28号までの編集は金剛流の望月悦夫様が勤められました。長い間ご苦労様でした。今号から観世流の室屋が担当します。ご寄稿、ご愛読をよろしくお願い申し上げます。

横浜能楽連盟　連絡先
◎文書郵送又はＦＡＸの場合
〒233－0013　横浜市港南区丸山台二丁目二九－一七　新堀方
ＦＡＸ　〇四五－八四四－二九〇三
◎電話の場合
横浜能楽堂　原田由布子
ＴＥＬ　〇四五－二六三－三〇五〇